



園だより かけはし

キッドワールドこども園
令和8年2月28日

日に日に寒さが和らぎ、心地よい風を感じる日も多くなり、少しずつ暖かい日差しが春を感じさせてくれるようになってまいりました。

先日は、2, 3, 4, 5歳児の生活発表会に参加していただき、ありがとうございました。2歳児は初めてのホールホールでの出演となり、緊張のあまり泣いてしまうのではないかと不安はありましたが、ステージ上で手を振る子や、保護者を探す姿など、楽しんで参加する姿を見ることができました。また、3, 4, 5歳児は、役そのものになりきって演じる姿や一生懸命に歌や台詞を言う子どもの姿に成長を感じとっていただけたのではないのでしょうか。これからは、5歳児の大きなイベントである卒園式もひかえていますのでどうぞ最後までよろしくお願いいたします。

令和7年度も残り一ヶ月となりました。この時期は子どもの成長を振り返る意味でも、写真や動画を見返すことで、子どもの成長を実感できるのではないかと思います。



行事予定

日	曜日	園児に関すること
2	月	身体計測(3・5歳児)
3	火	身体計測(2・4歳児)
4	水	身体計測(1歳児さくらんぼA組)
5	木	身体計測(1歳児さくらんぼB組)
13	金	誕生会
16	月	避難訓練
17	火	お別れ会
21	土	卒園式
26	木	健康診断、身体計測(0歳児) 弁当日

お知らせ

- ※ 子どもたちに美味しいものを提供したいという気持ちから、おやつに使用している食パンを2026年1月より『ビーバーパン』の食パンに変更しました。
- ※ 本園、保育室内の壁紙の張替えを行ないます。
3月7日(土)、8日(日)、14日(土)、15日(日)の4日間で予定しています。保護者の皆様にはご理解、ご協力をお願いいたします。



お知らせ・お願い

- ※ 3月のお弁当日は、26日(木)です。子どもさんが楽しみにしているので、忘れないようお願いいたします。
- ※ 3月の保育料の納入期間は、23日(月)・24日(火)・25日(水)の3日間です。
(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)



子どもが望む大人の世界⑤～17の子どもの願い～

キッドワールドこども園 総合園長 牧野 桂一

⑩一人一人の違いに応じた対応をする

前回までに発行の都合で紹介しきれなかった「⑩一人一人の違いに応じた対応をする」の項目以下の内容について、今回も順次紹介していきたいと思います。

最初は、⑩番目になる「一人一人の違いに応じた対応をする」から始めていきたいと思います。

子どもを取り巻く現在の環境の中で、私たちは多忙化という大きな時代の渦の中で、日常生活の中に精神的なゆとりを失ってしまい、ゆっくりと子どもたちと向き合い見つめ合い丁寧に関わっていくことがとても難しくなっています。その結果、私たちは知らず知らずのうちに、本来もっている一人一人の子どもの違いを忘れてしまい、子どもたちを一括的に一括りにして同一視する傾向がでてきています。

そのような変化の中で、私たち大人が心がけていかなければいけないことは「一人ひとりの子どもたちを本当に大切にすること」です。そのためには、子どもたちは、本来、一人一人違うということをしかりと胸に刻み、一人一人の違いに優劣をつけず、まず子どもの全てを受け入れていくことが大切になります。そして、どの子どもも心豊かに育っていくためには、子どもたちが今何を感じているのか、どのような経験が必要なのかということを広く受け止め続けていかなければならないのです。

兄弟姉妹であっても、一人一人の子どもはそれぞれ違った考えや感情を持っています。したがって、家庭生活の中では、本来子どもたち一人一人のもっている違いをよく理解し、それに応じた対応を行っていくために、まず一人一人の子どもの本当の気持ちを受け止め、興味や関心、個性を尊重しながら、それぞれの発達段階に応じた対応と働きかけを愛情深く行うようにしていきます。そして、個々の子どもが安心して生活できる環境を整え、個性や特性に応じた関わりを心がけるようにします。次に、子どもたちのありのままの姿に関心を持ち、子どものもつ力を信頼するように努めます。

兄弟姉妹一人ひとりの違いを大切にすることは、それぞれ子どもたちが自分らしく生き、互いを尊重し合う社会を育む上でも大切になります。それぞれの子どものがもつ個性や強み・弱みを認め合うことで、家族の絆がいつそう深まり、より豊かな人間関係を築いていくことができるようになるのです。

幼児期というのは、人の生涯の中でも発育と発達に最も個人差が出てくる時期です。ですから、家庭環境や生活経験によって生育や発達の状態もそれぞれ異なってきます。そのために家族であっても、兄弟姉妹であってもそれぞれが異なった考えや思い、感情を持つようになりコミュニケーションを通じて理解することが大切になります。このような中で、一人一人の子どもの違いに対応していくためには、それぞれ子どもの好きなことや得意なことを見出し、自己表現できる環境をつくり、それぞれの個性を尊重していくことが重要になります。また、「男の子だから」「女の子だから」「お兄ちゃんだから」「お姉ちゃんだから」「もう5歳になったのだから」「〇〇だから」といった子どもに対する固定観念を捨て、「みんな違ってみんないい」「ばらばらで一緒」という多様な価値観をもって人としてのあり方を考えることも大切になります。意見が異なる場合でも、「な

ぜそう考えるのか」ということに関心を持つことで人はそれぞれ違うという新たな発見を経験し、それぞれの違いを認識した上でお互いを大切にしていくことの意味を学んでいくことができるのです。

これまでのこと考えて整理して「一人一人の違いに応じた接し方」を考えると、それぞれ子どもの個性や特性をよく理解し、自己肯定感を育むことが大切になるということがわかります。人それぞれ成長のペースや得意なことは異なります。他の子どもや兄弟姉妹と比べるのではなく、その子の良い点を見つけて認め、励ましていくことが重要なのです。そのためには、「結果だけを比べるのではなく、努力の過程を認めること」「他の子と違うことを不安に感じている場合は、その違いが強みになることを伝えること」「欠点も弱点含めて、子どものありのままの姿を受け止めること」「一人の人間として尊く向き合うこと」このことを丁寧に行っていくことが大切になります。

一方で、子どもを他の子と比べると、子どもの自己肯定感を低下させる可能性があります。それぞれの家庭を、子どもが安心してありのままを受け入れてもらえる場所にすることが大切になります。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回には、⑫子どものしていることに驚きを持つ ⑬あるがままの姿を受け入れる ⑭明るくてほほ笑みの多い保護者になる ⑮ユーモアに富んだ保護者になる ⑯子どもの名前をいっぱい呼んであげる ⑰人として美しい親になるなどについて紹介していきたいと思います。

今回のエッセイでは、『一人一人の違いに応じた対応をする』とありました。多忙な日々を過ごす中での子育ては、手のかからない子どもが良い子どもに見えてしまいがちですが、本当の子どもらしさというものは、一概に手のかからない子どもとはいかないものだと思います。子どもが親の顔色を見ながら行動を起こすのではなく、自分の気持ちを言葉や全身で伝えることこそが子どもらしさではないかと思います。そのように育てることはとても難しく思えるのかもしれませんが、エッセイを参考にしながら子どもと向き合うと、本来の子どもらしさがみえてくるのではないのでしょうか。

最後に「自分の子が周りにいる子と同じようにできていない」、「人前で恥ずかしがって話そうとしない」、「言うことをきかない」とつい否定的に物事を捉えたりしないでください。エッセイにあるように『みんな違ってみんないい』とあるようにその子の良さとして温かく見守ってあげたいと思います。

園長 高津 宏児



生活発表会
提供:ミサオスタジオ